



「VOICE 農業の現場から」は、京都府福知山市三和町で農業を営む、農業生産法人(株)京都府天田郡みわ・ダツシュ村が、日本の食の安全と農業の発展を願い、農業の現場・農政の矛盾・国民への投げかけを、メディアの皆様に発信するものです。食料自給率が低迷する中、農業改革は日本にとって必至です。メディアの皆様には様々な角度から農業を見ていただきたいとの思いから、情報提供をさせていただきます。

## VOL.14 農業関係者の現状

株式会社農業技術通信社が主催する、農業関係のビジネスプランコンテスト「A-1 グランプリ 2011」の決勝大会が7月1日に開催された。当社農業生産法人 株式会社京都府天田郡みわ・ダツシュ村も、A-1 グランプリに参加し、決勝大会では惜しくも受賞を逃したが、A-1 グランプリを通じて、農業関係者の現状を垣間見たのでレポートしたい。

### ▼A-1 グランプリ

A-1 グランプリは、「農業を元気に！地域を元気に！ニッポンを元気に！」というコンセプトで開催されているビジネスプランコンテストである。農家や農業経営者が自らビジネスアイデアを各種専門家で構成される審査員の前で発表することで、様々な指摘を受けブラッシュアップする機会でもある。「補助金に支えられた弱い業界」のイメージを持たれる農業において、「自立する農家・農業者」を応援し創造するためのビジネスプランコンテストである。

A-1 グランプリ 2011 には、全国各地から 200 近くの農業者の応募があり、書類一次審査・書類二次審査・地方プレゼン大会を経て全国大会に進めたのは 11 の農業者であった。

当社、みわ・ダツシュ村は、「耕作放棄農地を取得・開墾し優良農地化させ、完全無農薬・無化学肥料・有機栽培による安全・安心な農業を行い、地域の活性化へとつなげる」といった事業、そして一口農場主と呼ぶ株主の支えで事業基盤を固める「一口農場主制度」についてプレゼンを行った。残念なことに賞は逃したが、他の 10 件のプレゼンを聞くと、農業が持つ閉塞的・保守的・弱いイメージは

どこ吹く風のように感じる。「農業には未来がある」そう思わざるを得ない。

### ▼グランプリ受賞の「農機具のカスタマイズ計画」

みごとグランプリを受賞したのは、「株式会社 下請の底力」羽廣保志氏（群馬県太田市）の「農機具のカスタマイズ計画」。

農家や農業法人には、「この器具の、ここの幅を少し広げたい」や「この機械の、回転速度を早くしたい」といったニーズがあるが、メーカーは対応していないケースもある。ところが新しいもの買い換えるとなると、費用がかかりすぎ現実的ではないという実情がある。

(株)下請の底力の「農機具のカスタマイズ計画」は、農家や農業法人からの、このような声に対応するものである。ニーズはある程度分類されるため、カスタマイズ案件を汎用化し「部品」として広く販売すれば、黒字化を期待できる……そのようなプランであった。

他にも、低コスト化を実現し「60 キロ 7,000 円で利益を出す米づくり」で部門賞を受賞したナリミツ農園・成田康平氏（青森県藤崎町）のプランや、全国から茶畑オーナーを募り、オーナーとともに農業活性・社会貢献を実現する、京都おぶぶ茶苑 副代表 松本靖治氏（京都府和東町）「茶畑オーナー制度」など、多くのプレゼンターがプランを発表した。

決勝会場には「弱い農業」という空気はなく、「自ら切り開く！」「ビジネスプランで勝つ！」「新しい農業を作る！」「農業界を盛り上げたい！」という思いを持った農業者が熱い思いを持ち集い、また 200 名もの聴講者が集まったことから、農業は決して内向き産業ではなく、農業者自身が将来性を確信している産業と言えよう。

## 耕作放棄農地問題に取り組む、みわ・ダツシュ村

当社は、限界集落を有する過疎地の三和町に点在する耕作放棄農地を購入して開墾し、優良化した農地で完全無農薬有機で農業をしております。農業の現場にいる者として、現場だからこそ見える、農政の矛盾・農業従事者からの提案を発信し、日本の農業の振興につなげていきたいと考えております。

■お問合せ先 : 農業生産法人・株式会社京都府天田郡みわ・ダツシュ村 (略称・みわ・ダツシュ村)

: 代表取締役村長清水三雄 (しみずみつお)

■住所 (京都四条オフィス) : 〒 600-8412 京都市下京区烏丸綾小路下がる西側 四条地下鉄ビル 6 F

■TEL : 075-954-6666 (代表取締役村長 清水三雄直通)

みわ・ダツシュ村

検索